

第 19 回 社会福祉士 専門科目（やまだ塾）

国家試験 問題・解説

＝④社会福祉援助技術＜事例 13＞＝（問題 126～問題 128）

【社会福祉援助技術】

（社会福祉援助技術・事例問題2）

次の事例を読んで、問題126から問題128までについて答えなさい。

（事 例）

M子は、16歳の女子高校生である。交通事故で腰や足の骨を骨折し、A病院に入院している。熱心にリハビリテーションに取り組んだ結果、杖を使ってようやく歩ける程度の身体状況になった。医師からは、これ以上の回復は困難なので、自宅に戻って機能保持のためのリハビリテーションに通うよう告げられた。

M子は、バスケットボールに夢中で、部のキャプテンをしていたこともあり、完全回復への期待が大きかった。それだけにショックは隠せず、夕方に見舞いに訪れる母を待ち構えては、激しい言葉で八つ当たりする毎日であった。母は、M子の心中を察しながらも、どのように応じたらよいかを困惑している様子であった。M子の家族は、本人、会社員の父、パート従業員の母、中学校3年生の弟の4人家族である。

ある日、母が「娘(M子)に内緒で来ました。今日は時間があるので話を聞いてほしいのですが…」とA病院のソーシャルワーカー(以下、「ワーカー」という。)を訪ねてきた(問題126)。

ワーカーとの面談で、母は、家族会議を開いてM子の退院帰宅を弟の高校受験の後にするにしようとしたという。帰ってくると弟の勉強部屋が確保できない上に、M子はもともと自分本位なので、「受験が終わるまで帰ってきてほしくない」と弟も言っている」と母は述べた。そして、母は、多感な時期である息子の気持ちを配慮して、「M子には、リハビリが続けられる別の病院か施設を紹介してもらい、完全に落ち着いてから家に帰ってきてもらいたい。正直なところ、そのほうが私も気が楽です」とも述べた。

…(中略)…

面接終了後、ワーカーは、これまでリハビリテーションに懸命に取り組んできたM子の姿を思い浮かべ、本人を抜きにして帰宅を拒む結論を出したという家族の決定に少々腹立たしい気持ちを感じた(問題127)。

数日後、医師から「退院について相談に乗ってあげてほしい。M子にもワーカーが来ると伝えた」と依頼された。ワーカーがM子を訪ねて話をしたいと言うと、M子は「誰とも話なんかする気分ではない」と答えた(問題128)。

問題 126 この場面におけるワーカーの対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 患者はM子なので、M子の許可を取ってから母と面接を行う。
- B. ワーカーは、家族メンバーもクライアントとしてとらえて面接を行う。
- C. 患者に対して責任を取る立場の主治医に指示を受けてから、母との面接を行う。
- D. M子に内緒で母の相談を受けることのリスクと、それへの対処方法を考えながら面接を行う。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

問題 127 この状況におけるワーカーの対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. ワーカーは、中立的な立場を保持すべき専門職なので、このような腹立たしさを意識しないようにする。
- B. ワーカーも人間である以上、様々な感情を抱くものなので、ワーカーは、自分が腹立たしいことを率直に表出する。
- C. ワーカーは、自分の感情を吟味しながら、その感情を自覚する。
- D. ワーカーは、面接における自分の感情の意味を理解し、その対応方法を考えるため、スーパービジョンを受ける。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	×	×	○	○
4	×	×	○	×
5	×	×	×	○

問題 128 この直後に行うワーカーの対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 話せる気分ではないと言っていましたと主治医に報告します。
- B. 誰とだったら話ができるのですか。
- C. 話をしたくない……そういう気分なのですね。
- D. 私が来ることを主治医から聞いていなかったのですか。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	○
3	×	○	×	○
4	×	×	○	○
5	×	×	○	×